



志政会 中込 淳之介

問 海老名市観光協会は、平成3年に設立され、22年間の長きに渡りその役割を果たしてきましたが、一般の理事会において今年度での発展的解散が決定しました。しかしながら、今後においても、本市における観光振興は大変重要な役割を持っていると認識しています。本市の基本的な観光振興の考え方と、観光協会の解散後に、どのように観光事業のあり方を見直していくのか、市長の見解を伺います。

答（市長）：平成26年度以降は市が中心となり、民間の意見を取り入れながら観光振興の充実を図ります。現在観光振興条例を制定している市町村があります。海老名でもこのような条例でいいのか、商工会議所からは商業振興条例制定の要望が出ているので、にぎわいをキャッチフレーズとした観光振興、商工業振興を大きく網羅したにぎわい創出条例を含め検討してまいります。**答（経済環境部長）**：観光振興は、経済的重要性はもとより文化的側面からも重要な役割があると認識しています。行政だけではなく観光を推進する商業者団体、農業者団体、民間事業者や大学、市民も加わり新たな組織を立ち上げてまいります。

その他の質問

・柏ヶ谷市宮住宅跡地について



さらなるにぎわいを

・イメージアップキャラクターえび〜にゃの今後の活用について



日本共産党 松本 正幸

問 先般、公共施設利用料等に関する基本方針（案）が作成されました。本方針では、今まで無料で使用できたコミュニティセンターや文化センターなども有料化を検討しています。また、地域住民活動拠点、地域ボランティアや高齢者生きたが活動拠点施設まで有料になることで市民の自主的な活動が大きく抑制されることが予測されます。今回の見直し理由のひとつに、「受益者負担の原則」を徹底し、一般利用の対象となる全ての公共施設について有料化を検討するものです。有料化によって市民活動・地域活動が大きく後退するのではと危惧しますが、市長の見解を伺います。

答（市長）：施設利用における負担はより少ないほうが望ましいですが、少子高齢社会により、施設運営における公的負担が大きくなってきました。一方、施設利用しない方の不公平感にもつながりかねず、公平な負担方法の検討が必要です。先日実施した説明会では、福祉分野やボランティア、高齢者などの団体から利用料に関し、配慮してほしいとの意見が出されていることから、今後出された意見を踏まえ、必要な修正を加え、基本方針を策定してまいります。

その他の質問

・介護認定者「障がい者控除」に関して



志政会 森下 賢人

問 現在、海老名市においては平成20年3月に公表された第四次総合計画に基づいて市政運営がされています。総合計画は街の将来像を描く上で大変重要なものです。しかしながら、変化の早い現代においては、不要と思われる事業、計画にはなくとも必要な事業の出現が稀ではなくなっています。このような時、過去の計画にとらわれ今必要な事業への着手ができないとなると本末転倒です。総合計画についての市の考え方を伺います。

答（市長）：総合計画とは、市のまちづくりのための最上位に位置づけられる計画であり、行政運営の指針となるものです。現在、時代の変化に対応するとともに、早急な意思決定も考慮し、計画期間を前期の第三次総合計画の20年から10年に短縮しています。また、基本計画で定めた施策を展開するための具体的な事業を示した実施計画については、予算とあわせて作成することで、意思決定における妨げはより少なくなつたものと判断しています。

次期総合計画の策定にあたっては、他市の事例を研究し、新たな発想のもとでの策定も視野に入れてまいります。

その他の質問

・公共工事等の入札について



市の最上位計画の総合計画



志政会 永井 浩介

問 今日の学制である6・3・3・4制は戦後まもなく制定されましたが、現代の子どもへの身体的発達に当初との乖離が生じてきたこと、また、小学校高学年と中学生の間で、この時期特有の心理的変化により学校の好き嫌いや学習に取り組む姿勢に差が生まれており、その結果学力不振や学校生活への不適応を招いていると考えられること、いわゆる中1ギャップから、近年学校間の連携が重視されるようになってきました。そこで、義務教育期間を4・3・2の前期・中期・後期に分けるなどとする小中一貫教育を海老名市でも導入すべきだと考えますが、見解を伺います。

答（教育長）：子ども達の発達段階を考えると小学校高学年では、個人差はありますが、中学校のような専門的な教育を望む子どももいます。小学校の先生は教科担任制で指導が標準化しており、高学年が中学校の先生の専門的な教育を受けることによって学習意欲が高まることもあります。その点からもスムーズに中学校へ進学するため、小中一貫教育は重要だと認識をしています。そこで平成26年度は研究し、その翌年度にモデル校を設置し実施をしていきます。

